

石那田八坂神社 天王祭

石那田八坂神社の天王祭は、京都八坂神社の祇園祭の流れを汲み、夏の疫病退散を祈願して七月下旬に一週間かけて行われます。天王祭は、神社本殿から御神体をお神輿に乗せて御仮屋と呼ばれる仮殿に移す「下遷宮」から始まり、御仮屋で一週間お守りしたあと、御神体を神社本殿にお戻しする「上遷宮」で締めくくられます。

天王祭では少なくとも四年に一度、「上遷宮」で先導役の猿田彦や六屋台が繰り出す「付け祭り」が行われます。石那田の暗闇の中に、屋台が提灯の明かりによって幻想的に浮かび上がり、お囃子の音が深夜の一時を過ぎるまで延々と響き渡ります。



天王祭の流れ

下遷宮



●八坂神社の三役と7集落(仲内・桑原・六本木・原坪・岡坪・仲根・坊村)の崇敬者総代、世話人の総勢24名で、お神輿を組み、幕を張り、提灯に灯をともすと、これから7日間続く「八坂神社天王祭」の「下遷宮」がはじまります。



●御神体をお迎えに、高張提灯を先頭にお神輿の一行が八坂神社本殿へ向かいます。

●本殿前で神事が行われ、宮司が御神体をお神輿から移します。これから7日間御仮屋で、7集落が当番でお守りします。

上遷宮と付け祭り



- 崇敬者総代が集まり、石那田全戸に配るお札を作ります。
- 天王祭では、少なくとも四年に一度は屋台を繰り出す付け祭りが行われます。付け祭りの年は、榊里に猿田彦と6屋台が集結します。
- 猿田彦を先頭に隊列を組んで御仮屋に向かいます。



- 御仮屋に猿田彦と6屋台が集結しました。各屋台からお囃子の音が鳴り響き、祭りの中で一番の盛り上がりを見せます。
- 御仮屋では、御神体をお神輿に乗せ八坂神社本殿にお送りする「上遷宮」のための神事が行われます。
- 宮司による祝詞奏上のあと、崇敬者総代による献饌(けんせん)の儀が行われます。石那田の献饌の儀は、総代7名が供物に息がかからないように「含み紙」を口にくわえ、供物を御神体の前に捧げる珍しい儀式です。
- 玉串奉天が終わると、お神輿を担ぎだし本殿に向かいます。



- ご神体をお神輿を先頭に、猿田彦、6屋台が八坂神社に到着し整列すると、お神輿が置かれ本殿に獅子頭が供えられます。
- 本殿前にゴザが敷かれ、宮司、三役、崇敬者総代、世話人がそろう神事が執り行われます。お神輿からご神体が降ろされ本殿に納められるころには、すでに深夜12時をまわっています。
- 合図のもと、6屋台のお囃子が再び暗闇に鳴り響きます。お神輿は御仮屋へ、猿田彦や屋台はそれぞれの集落へと帰っていきます。石那田の暗闇に、笛や太鼓や鉦の音がいつまでも響き渡ります。

猿田彦と6台の彫刻屋台

〈天王祭 上撰宮と付け祭りのスケジュール〉

※7月の最終土曜日を「上遷宮」の日として、この日を基準に日程が組まれます)

- 19:00頃～ 各集落から屋台が出発(遠い地区は18:30頃～)
- 20:00頃 榊里(日光街道)で猿田彦と6台の屋台が集結
- 20:30頃 猿田彦の先導で御仮屋に集結
- 21:00頃 御仮屋で神事を開始
神事終了後、お神輿・猿田彦、屋台は隊列を組んで八坂神社本殿へ向かいます
- 23:00頃 八坂神社本殿で神事を開始
神事終了後、お神輿は御仮屋へ、屋台はそれぞれの集落へ帰っていきます



神楽獅子・猿田彦面・採物・衣装一式は宇都宮市指定文化財

仲内／猿田彦 ①

仲内地区は、祭礼の先導役となる「猿田彦」(天狗の神)を担当し、祭礼の順位は1番です。猿田彦は日本神話に登場する天狗の顔をした神で、道案内の神として信仰されています。猿田彦一行の歩行順位は、先頭に「一番」と書かれた提灯をもつ2名の「露払い」、高下駄の「猿田彦」(天狗)、「若獅子」(二頭)、最後に御幣を持つ「太夫」(4人の子供)の順序です。

天王祭では、少なくとも四年に一度は屋台を繰り出す付け祭りが行われます。その年は、上遷宮の前日に6集落で屋台を組み立てます。各集落の屋台には順番が定められ、これに従って巡行・整列します。

6屋台は宇都宮市指定文化財(昭和49年)



■明治9年(1876年) 桑原 ②

■神山政五郎 作

■鬼板には、羽のはえた龍と魚のような龍がつけられています。正面の障子は鶴に牡丹が彫られ、側面の脇障子や障子回りなどには、菊を中心にぶどう、リス、小鳥がみごとに彫られています。



■文政11年(1828年) 六本木 ③

■高田伊兵衛 作

■鬼板には親獅子が子獅子を谷底に蹴落とす様子が彫られています。正面の内障子や側面の脇障子の彫り物は菊とにわとりが組み合わせられ、柱隠しには金色の瓢箪とリス、白ねずみが彫られています。



■江戸末期 原坪 ④

■後藤周二 浪 作

■鬼板には金色の浪に龍が彫られています。脇障子と障子回りは菊で埋め尽くされ柱隠しと梁にはぶどうとリスが彫られています。また、後面には火炎の龍と虎が彫られています。



■文化6年(1809年) 岡坪 ⑤

■後藤常吉正秀 作

■鬼板には彫りの深い牡丹にわとり、小鳥が彫られています。正面は牡丹の彫刻が多く見られます。側面の脇障子は松に鷹が彫られています。また障子周りは菊が彫られています。



■安政元年(1854年) 仲根 ⑥

■磯辺儀兵衛敬心 作

■鬼板には牡丹に獅子が彫られています。正面の内障子は荒波に龍と虎の彫刻が施されています。側面の障子周りは色とりどりの菊が彫られ、柱隠しは牡丹とにわとりが彫られています。



■嘉永元年(1848年) 坊村 ⑦

■磯辺儀兵衛敬心 作

■鬼板は浪に龍です。その下にもたくさんの龍が彫られています。正面の内障子と側面の脇障子は牡丹に獅子の彫刻で埋め尽くされています。また側面の高欄は曲線状の虹高欄です。

石那田八坂神社の歴史と御仮屋・祭礼神輿について



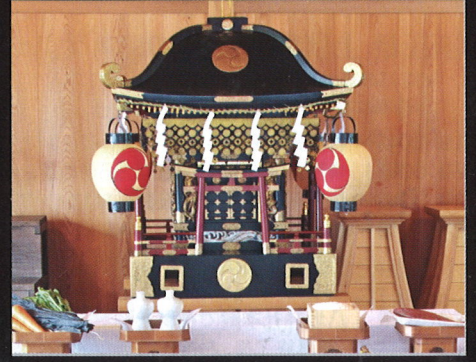
石那田八坂神社本殿

石那田の八坂神社は、江戸時代初期に当地で流行した疫病を鎮めるため京都の八坂神社から御霊を願い受け、鎮座させたことが起源とされています。江戸中期(1723年)に再び疫病が流行し社殿を石造りに替えました。主祭神は素戔嗚尊(すさのおのみこと)。



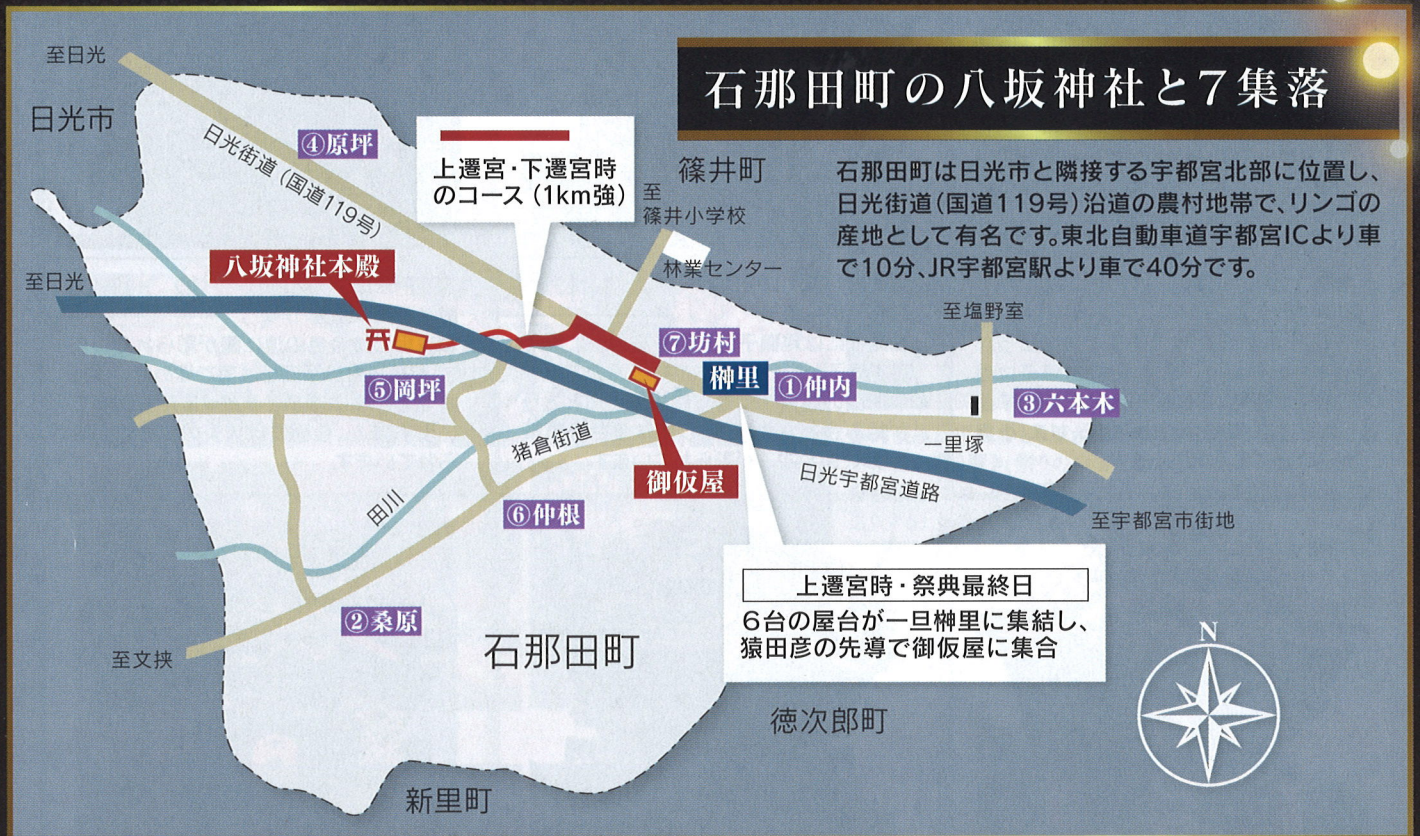
御仮屋(八坂神社仮殿)

八坂神社の仮殿である御仮屋は、1854年に建造されたと伝わっていますが、老朽化のため平成15年に立て替えられました。天王祭では、神社本殿から御神体をお神輿に乗せて御仮屋に移し、その後1週間御仮屋で7集落が当番でお守りします。



祭礼神輿(宇都宮市指定文化財)

お神輿は高さ115cm、台輪の幅84cm、重さ約60kgで4人で担ぐことの出来る軽量のもの。屋根、台輪、唐戸に石那田八坂神社の三つ巴紋がついています。お神輿を保管している木箱には「牛頭天王(ござてんのう)神輿」という銘が記されています。



平成25年度 宇都宮市伝統文化映像記録作成事業

企画・製作: 宇都宮市伝統文化映像記録作成事業実行委員会
 協力: 石那田八坂神社天王祭保存会
 助成: 平成25年度 文化遺産を活かした地域活性化事業
 発行日: 平成26年3月31日
 著作: 宇都宮市教育委員会

連絡先: 宇都宮市教育委員会文化課
 宇都宮市旭1丁目1番5号
 TEL. 028-632-2764
 FAX. 028-632-2765